10　　船旅の情趣 　　　　　　　　　　　連体形その他に接続の助動詞

十七日。曇れアる雲なくなりて、暁月夜、いとおもしろければ、船を出だして漕ぎ行く。

このあひだに、雲の上も、海の底も、同じイごとくになむありける。むべも、昔の男は、「棹は穿つ波の上の月を、舟は圧ふ海の中の空を」とはⅠいひけむ。聞き戯れに聞けるなり。またある人のよめる歌、

水底の月の上より漕ぐ舟の棹にさはるはⅡ桂なるらし

これを聞きて、ある人のまたよめる、

かげ見れば波の底なるひさかたの空漕ぎわたるわれぞわびしき

かくいふあひだに、夜やうやく明けゆくに、楫取ら、「黒き雲にはかに出で来ぬ。風吹きぬべし。御船返しウてむ」といひて船返る。このあひだに、雨降りエぬ。いとわびし。

【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の、文法的意味を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　　〕　イ〔　　　　　　〕　ウ〔　　　　　　〕　エ〔　　　　　　〕

②傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、（　）に書きなさい。

Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　）

Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　）

③□「ひさかたの」はどのような修辞技巧か。【　】に書きなさい。

【　　　　　　　　　　】

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　やうやく〔８〕　　①（　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　　②静かに

２　にはかなり〔８〕　（　　　　　　）

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　父母のみひしく、ならはぬのわびしくおぼつかなきこと、　（うつほ物語）

ア　荒れ果てて　　　イ　貧しく

ウ　ものさびしく　　エ　やりきれなく

（　　　）

２　吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風を嵐といふらむ　（古今集）

ア　なるほど　　　　　イ　無理矢理に

ウ　そういうことで　　エ　必然的に

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　天の原ふりさけみればなるの山にいでし月かも（古今集）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　五日、風やまねばなほ同じところにあり。六日、昨日のごとし。

（土佐日記）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　博士どもの書ける物も、のは、あはれなること多かり。（徒然草）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

問４　次の傍線部の文法的説明として適当なものを、後から選べ。

１　舟こぞりて泣きにけり。（伊勢物語）

２　こなたは、あらはにやあらむ。　（源氏物語）

３　心といふもののなきにやあらん。（徒然草）

４　国の守にからめられにけり。（伊勢物語）

ア　完了の助動詞　　イ　断定の助動詞

ウ　格助詞　　　　　エ　ナリ活用形容動詞の一部

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）　　４（　　　）

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　目には見て手には取られぬ月のうちの桂のごとき君にぞありける　（伊勢物語）

（　　　　　　　　　　　　　）

２　今日は人の上たりといへども、明日はわが身の上たるべし。　（平治物語）

（　　　　　　　　　　　　　）

【探究】表現してみよう

問６　次のどちらかを選んで、自分の体験を振り返り、説明しよう。

ア　月が美しいと感じた時。

イ　旅行の時に美しいと感じた風景。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝存続　イ＝比況　ウ＝強意　エ＝完了

②　Ⅰ＝言ったのだろう　Ⅱ＝桂であるらしい

③　枕詞

問１　１＝だんだん　２＝急だ

問２　１＝ウ　２＝ア

問３　１＝存在・連体形　２＝比況・終止形　３＝完了・連体形

問４　１＝ア　２＝エ　３＝イ　４＝ウ

問５　１＝桂のような　２＝身の上であるだろう

問６　観点　どちらを選んだ場合でも、そのときの状況や風景、また具体的にどこに美しさを感じたのかを、詳しく説明すること。

【現代語訳】

問２　１　父母ばかりが恋しく、慣れない住まいがものさびしく不安なこと、

２　風が吹くやいなや、秋の草木がしおれるので、なるほど、山から吹きおろす風

を（山嵐と書いて）嵐（荒らし）というのだろう。

問３　１　大空を遠く望み見ると（見えるあの月は、昔、故郷の）春日にある三笠の山の上に出た月（と同じ月）であることよ。

２　五日、風がやまないのでやはり同じ所にとどまる。六日、昨日と同様である。

３　博士たちの書いた物も、昔のには、感銘深いことが多い。

問４　１　舟中の人たちはみな泣いてしまった。

２　こちらは、人目につくではないか。

３　心というものがないのであろうか。

４　国の守に捕らえられてしまった。

問５　１　目には見えても、手には取ることができない月の中の桂のようなあなたであることよ。

２　今日は他人の身の上だといっても、明日は自分の身の上であるだろう。